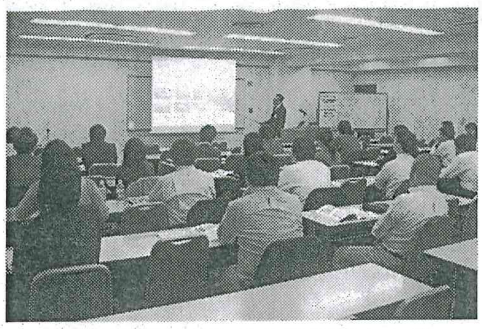
NPO法人廃棄物教育センター

3級受検者が500人突破

Rマスターの存在感高まる

NPO法人廃棄物教育センター（松岡力雄理事長、☎048・483・5013）が運営するリサイクルマスター3級の受検者が、11月21日付で通算500人を突破した。昨年4月に第1回検定を実施以降、同NPOでは関東、東北、中国、九州、北陸、中部、近畿の各地方で訪問検定を重ね、3級資格の存在を全国に浸透させてきた。21日も東京都内のセミナー会場で行った検定に全国から32人が参加した。



11月21日に行われた検定のもよう

3級検定は処理業従事者に廃棄物処理・リサイクル業の基本を学んでもらうことを主な目的に、講習・検定合わせて1時間のスケジュールで実施される。そのほとんどは訪問検定の形で行われる。

21日の検定では、松岡理事長によるあいさつ訓練と質疑応答訓練の後、3級講師としてプライムコーポレーション代表取締役の堀越正紀氏が初登壇。堀越氏は、自らの収集運搬実務経験をもとに、具体的な現場の話を交えながら、1日の作業の流れを通じて心がけなければならないポイントをわかりやすく説明していった。

和歌山県から参加した受検者の1人は「私が県内第1号」と喜んでいた。

日報ビジネスとの共同企画で開催した今回の検定では、検定試験後、エコイマジン代表の今仁豪造氏を講師に、処理業実務者の営業力・コミュニケーション力をテーマにしたセミナーも開かれた。

健康管理といった『人間力』を高めることが大事」と話し、自衛隊での勤務経験を交えた自己紹介をするとともに、仕事の心構えを指導した。

また、排出事業者の無理な要望に応えてけがを負った収集運搬業者の事例を紹介し、負傷した指の画像を見せながら、「常に『安全第一』を意識し、時には止める勇気も必要」と説明。次に、受験者の中から順番に3人を指名し、「この仕事をやっていて嬉しかったことは？」などを質問。「元気なハキハキとした返事を心がけて」と、コミュニケーション能力向上を呼び掛けた。

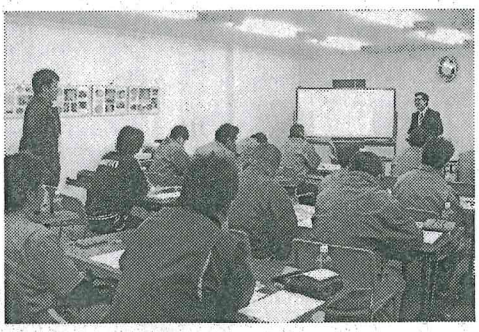
三重県津市でも検定開催

三功など6社27人が受験

11月14日には同NPOによるリサイクルマスター3級の検定試験が三重県津市で開催された。会場は三功（同市、片野宣之社長）の第一リサイクルセンター。

今回6社合同検定として、現場業務に携わるドライバーなどを含め計27人が受験した。参加したのは、▽三功▽小崎商店▽香良洲総業▽進栄サービス▽向陽▽SUN――の6社。

冒頭、あいさつに立った片野社長は「廃棄物処理業にもコミュニケーション力が非常に大事になってきている。一から基本を学び直すことで社員教育など会社組織の役に立てていきたい」と話した。



研修の質疑応答のようす

検定ではまず、約40分の研修で礼儀・あいさつの訓練、質疑応答等について学んだ後、約20分の試験を実施。講師の松岡同NPO理事長は「リサイクル・廃棄物処理業のプロとして、礼儀や協調性、